

法ナリ減債基金法トハ政府ヨリ年年若干額ヲ基金トシテ支出シ之ヲ以テ公債ヲ時價ニテ買上ケ其買上ケタル公債ノ利息ハ又基金ニ編入シテ買上ケニ充ツル法ナリ此法ノ主論者ハブライズ氏ニシテ氏ハ複利ノ結果ノ大ナルコトニ留意シ利子ノ上ニ利子ヲ加フルトキハ些少ノ元金ト雖モ著シク増額スルカ故ニ當初一志ノ金額ヲ元金トシテ投下スレハ此元金ハ年年之ニ利子ヲ放下スルニ因リテ自ラ増加ヲ來シ終ニハ公債總額ト同額ニ達スルニ至ルヘク且又新公債ニモ一之ニ相當ノ基金ヲ備フレハ該基金ハ利子ノ上ニ利子ヲ生シ次第ニ増加ヲ來スヘキカ故ニ容易ニ之ヲ償還スルコトヲ得ヘシト説ケリ此方法ハ第十八世紀ニ「ワルボール」氏之ヲ創設シ同世紀ノ終マテハ此法ヲ以テ公債償還ノ法ト爲セリ然ルニ爾後公債ノ種類著シク遞増シ某公債ノ資金ニ充テタル某税ノ收入豫定額ニ超ニテ多キモ某公債ノ資金ニ充テタル某税ノ收入豫定額ヨリ下リテ不足ヲ生シ而モ此等各公債ノ資金間ノ流用ヲ許ササルヲ以テ基金總額ニ於テ餘裕アルモ某公債ノ元利支拂ニ故障ヲ生スルノ奇觀ヲ呈スルノミナラス爲メニ管理上非常ノ煩雜ト經費ヲ要スルニ依リ「ウイリヤム・ロット」氏ハ此等各公債ノ資金ヲ分開シテ一大基金ヲ設ケ以テ便宜各種公債ノ

支拂ニ充ツルニ至リタリ然レトモ此方法ハ「ハミルトン」リカルド等ニ由リテ根底ヨリ其利益無クシテ弊害大ナルコトヲ論議セラレ剩餘金ヲ以テ償還基金ト爲スヘキ原則ハ千八百十九年ニ於テ始メテ事實トシテ認めラルル所ト爲リ千八百二十年ニ至リテ償還基金獨立ノ制度全廢セラレテ從來其保有セル公債證券ハ總テ之ヲ棄却セララルコトト爲レリ佛蘭西ハ尙ホ政府公債證券ヲ買戻スコトアレハ直チニ之ヲ消却セス其利子ヲ積ミ之ヲ以テ公債償還ノ資ニ充ツルノ法ヲ執レリ減債基金法ノ根本ノ誤見ハ基金ヲ以テ公債ヲ買上ケルハ政府カ生産的ニ財産ヲ購入スルモノナリト爲スニ在リ蓋シ公債ノ償還ハ如何ナル方法ヲ執ルモ到底國庫ノ支出ヲ免レサルモノニシテ此方法ハ單ニ人民ニ支拂フヘキ利息ヲ政府カ領收シテ之ヲ消費スルコトナク流用スルニ止マリ國庫ノ支出ニハ二者増減ナク之カ爲メニ歳出ヲ節約シ人民ノ負擔ヲ輕減スルモノニ非ス故ニ此方法ハ徒ニ巨額ノ資金ヲ不生産ニ積立テテ之カ取扱ノ爲メ特別ノ官署ヲ設ケ財政機關ノ一部タルノ地位ヲ去リテ純然タル一箇獨立ノモノト爲リ此方法維持ノ爲メニ之カ擔保トシテ更ニ新公債ヲ起スカ如キ兒戲ヲ馴致シ右手ヲ以テ借リ左手ヲ以テ償却ス

ルカ如キ奇觀ヲ演スルノミナラス巨額ノ資金ヲ不生産的ニ蓄積スルハ斯法本来ノ目的ヨリ已ムヲ得サルノ弊害ト觀ルヘキモ多クハ他ニ濫用セララルル爲メ曾ニ減債基金ノ本旨ニ背反スルノミナラス其害毒却テ大ナルコトハ英國財政史ニ於テ屢見タル所ナリトス

註一

「ソルボール」氏減債基金法開始ノ當初十一年間ハ規則ヲ嚴重ニ恪守セルト共ニ公債買上ケノ爲メニ高利公債ヲ募集スルノ見越テ演シ後ニ利率亦合ノ差額ト無用ノ手数料經費ヲ損スルノ愚ヲ學ヒヨリ千七百二十七年後ニ至リテハ漸ク濫用ノ増進ヲ阻キ新ニ起ス公債ノ利率ハ基金ヨリ支出スルコトト爲シ千七百三十三年ニハ基金ヨリ五十萬磅ヲ割キテ通常經費ニ流用シ翌年又二十萬磅ヲ割キ爾後戰時事變ノ爲メ濫用スルコト多カシクシテ以テ「ブライズ」氏ノ計算ニ依レハ千七百七十二年マデニハ二千萬磅ノ償還ヲ完ウスヘキ豫定ナルニ拘ラズ實際償還ヲ了セシモノハ僅僅五分ノ一ニ過キサルノミナラス一方ニハ格ト之ニ四倍セル公債ヲ起シヨリ一千七百八十六年ヨリ「ヤム、ビロト」氏再ヒ斯法ヲ起シ嚴重ニ之ヲ濫用ノ弊害ヲ抑制セシモ曾キ一方ニハ一億三千八百萬磅ヲ償還シテ一方ニハ五億七千四百萬磅ノ新債ヲ起シヨリ

之ヲ要スルニ公債ノ償還ハ臨時ノ收入又ハ收入ノ剩餘金ヲ以テスルハ外途ナキハ明カニシテ年年財政ノ緩急ニ應ジ剩餘金ヲ以テ公債償却ノ使途ニ供セスンハ

「アラス」ハミルトン氏ノ所謂歳入剩餘ハ獨リ公債ノ償還ニ充ツヘキ真正ノ償却基金ナリトハ公債償還ノ原則トシテ不可ナルヲ見サルナリ蓋シ公債ハ國家ノ債務ナリ苟モ其償還カ惡税ノ廢止ニ先チ又ハ爲メニ惡税ヲ生スルカ如キ結果ニ陥ラサル以上ハ財政ノ緩急ニ應ジテ常ニ之カ償還ヲ怠ルヘカラス國家ハ永久ノ法人ナリ信用ハ之ヲ破ルニ易ク之ヲ得ルニ難シ國家ハ不法不理ノ手段ニ訴ヘテ一時ノ儉安ヲ計ルヘカラス國家ハ合法ニシテ且比較的利益アル範圍ニ於テ公債ノ償還ヲ爲スヘク借換ニ依ルモ買上ニ依ルモ錫戻ニ依ルモ其手段ノ是非ハ一時ト處ニ依リテ之ヲ決セスンハ非ス

國家ハ公債償還ノ資金ヲ減債基金法ニ依リテ求ムヘカラス之カ一種ハ變態ト觀ルヘキ有期年金又ハ終身年金ニ借換ヘテ公債ヲ償還スル方法モ亦等シク之ヲ排斥セスンハ非ス國家ハ財政ノ緩急ニ應ジ便宜剩餘金ヲ以テ公債ノ償還ニ充ツルコトヲ怠ルヘカラス然レトモ漫然臨時ノ收入ヲ待ツハ公債償還ノ常道ニ非ス財政ノ緩急ニ應ジ公債費トシテ年年一定ノ繼續費ヲ支出シ公債累積ノ弊ヲ防遏スルコトヲ便ナリトス是レ「アルベルト」ガ「ラチ」氏ノ創造ニ係ルモノニシテ我邦公

償還ノ方法ハ大體ニ於テ亦相一致スル所ナリ

註一 米。國。債。銷。却。法。ノ。概。概。

十八世紀ノ末葉ヨリ十九世紀ノ初年マテハ合衆國ハ零シク償還基金法ニ依リ事實却テ公債ノ總額ヲ増進シ「ガラチン」氏ニ依リテ始メテ英國國債ノ有者ナル償還方法ハ排斥シ合衆國政府ノ公債整理ノ基礎ヲ確定シ「ハリス」氏ハ表面ト世人カ公債償還ノ爲メニ既ニ行フ所ノ施設ヲ確立スルモノト誤解スルコトヲ避ケンカ爲メ千七百九十五年ノ償還基金法ニ關スル法律ハ之ヲ全廢スルコトヲ實質ノ上ニ於テ條文ヲ改正シ在來ノ償還方法ヲ收メテ公債元利金ノ償還支拂ノ爲メニ繼續費トシテ年年七百廿萬弗ヲ支出スルコトト爲シ（其後八百萬弗ニ増加シ「ハリス」年ノ公債利子支拂ノ外剩餘額ヲ以テ元金ノ償還ニ充テテ千八百十二年ノ戰争ニ際シテハ合衆國ノ公債ハ殆ト半減シテ四千五百十二萬餘弗ト爲レリ其後千八百十二年ノ戰役ノ結果公債ハ再ヒ増加シテ一億二千萬弗ニ上リシモ「ハリス」氏ノ方針ヲ一貫シテ公債元利支拂ノ繼續ヲ増加シ千八百四十二年ニ至リ悉皆之ヲ償還シタリ其後千八百六十年ノ南北戰争ニ於テ「チエリス」氏ハ又公債償還基金法ヲ定メシコトアルモ亦失敗ニ了リ國庫剩餘金又ハ繼續公債費ノ方便ニ依リテ財政ノ維持ヲ爲セシ「マヨカロ」氏ノ財政報告ノ證明スル所ナリ

一定ノ金額ヲ支出スルモノニシテ而シテ公債費ノ支出其モノ及ヒ其用途ハ公債所有者ニ對シテ契約ノ條件トシテ政府ヲ驅束セバ「ハリス」氏ノニ非ス金額ノ流用ハ禁止セラレ

原ナク又戰時財源ノ加増利權スルノ要ヲシテ流用ヲ禁ズ公債償還ニ特定セラレルノ危險ハ遂ニ流用ノ危險ニ倍極スル所アルハナリ公債增加ノ際同時ニ公債ノ償還ヲ爲スハ表面ト國家ノ財政ヲ安固ナラシムルノ觀アリテ實ハ公債ノ總額ノ増加ヲ來ス危險ヲ必然ノ條件トシテ條件セシムルモノナレハナリ故ニ公債費ノ支出ハ同時ニ其使用法ニ付キ行政費ニ裁量ノ餘地ヲ與フルコト大ナラザルヘカラス是レ「ガラチン」氏ノ大體ニ於テ成功セル所以ナリトス

註二 英國國債銷却法ノ沿革

英國現時ノ國債ハ遠テ第十三四世紀ノ頃ニ發シ奈破列諸戰争ニ至ルマテ戰役毎ニ其額ヲ増加シ戰争ノ終ニ於テハ總額九億零二百萬磅ノ多キニ達シ英國國債ハ實ニ此時ヲ以テ高潮ノ極頂ト爲ス爾來漸次ニ于漸ニ向ヒ千八百三十六年ヨリ翌年ニ亘リ殖民地ニ於ケル銀庫開放ノ爲ニ二千萬磅ヲ増シ又千八百五十五年ヨリ五十六年ニ亘リ「クイーン」戰争ノ爲ニ三千五百萬磅ヲ増加セル外昨千九百年ニ至ル迄年年其額ヲ遞增シテ七億三千九百萬磅ト爲レリ千九百一十一年三月ニ至リテハ英國國債ハ尙ホ甚ク振ハス英國力最モ國債ノ負擔ニ苦ミタル時ナリ此頃ヨリシテ同國政府カ苦心經營シタル國債銷却法ノ沿革專左ノ如ク

(一) 第一銷却實金法 千七百十六年英國國會ハ一定ノ財源ヲ指定シ其財源ヨリ得ル收入ヲ總ノ一般收入ヨリ分離シテ國債銷却實金トシテ先テ利子ノ支拂ニ宛テ歸納ス

凡テ國債元金ノ銷却ニ充テラレ法ヲ立テテリ所謂ソレハ銷却資金法ナレモ之ナ
リ此法ハ最初舊有ノ國債ノ償還ノ減少ト共ニ資金ノ餘裕大ナラニ至レヤ此餘
裕ヲ引當ニ國會ハ更ニ國債ノ募集ヲ阻シ法ニハ國會銷却資金ノ目的ヲ忘レ之ヲ以
テ普通債出ノ費途ニ流用スルニ至リテ遂ニ失敗ニ歸セリ

(二) ピット銷却資金法 ソレハ銷却資金法ノ失敗ニ歸スルヲ千七百八十六年
ソトハ更ニ功妙ナル方法ヲ提出セリ氏ハ國債銷却ノ到底國會ノ自由議決ニ放任シテ
行ハルヘカヲサレテ知リソレハソレノ年々ノ豫算ニ依ル法ヲ改メ永久的法律ヲ以テ
國債銷却委員會ナルモノヲ設ケ毎年百萬磅宛テ(後増シテ百四十萬磅トナス)此委員ニ
與ヘ委員ハ年々之ヲ以テ國債ヲ買收シ其利子ハ更ニ此買收資金ニ組入ルルモノトモ
リ提案者ハ此ノ如クセントキハ重利ノ結果ニ依リ比較的短時日ノ間ニ買入銷却ヲ爲
シ得ヘキコトヲ豫期セリ

然レトモ此法ニ依レハ國債力尙委員ノ手ニ在ル間ハ國庫ハ之ニ對シテ利子ヲ支持ヒ
國債ハ依然存在スルノ仕組ニシテ委員ノ買收ト同時ニ銷却セラレタルモノト爲サテ
ルハ其一缺點ナルノミナラス其最モ重大ナル缺點ハ此法ハ國庫ノ平和ノ時財政餘裕ア
ル際ニノミ行ハレ得ヘキモノナルニ在リ國庫事有リ財政困難ナルニ當リ一方ニ於テ
ハ國債ノ銷却ヲ行フト同時ニ他方ニ於テハ更ニ公債ヲ募集スル如キナラハ實ニ無用
ノ手段ヲ要スルノミナラス買收價格ト募集價格トノ差額ノ爲メ國庫ハ大ナル損失ヲ
蒙リテ得ルベシ是法ヲ購フテ是國債ヲ高價ニ買入ルルカ爲メ新債ヲ低價ニ募集セリ

▲ル方法ナリト言ヘル者アリ此ノ如キ明白ナル缺點アルニ拘ラス此法ハ少シノ修正
アリタルノミヨテ四十二年間行ハレ其間ニ國債銷却ノ爲メ募集セラレタル額ハ新國債ハ
三億三千万磅ノ多キニ上リ之ニ因テ政府カ被リタル損失ハ四千万磅以上ナリト云フ
宜重ク大國民ニ時ニ見易キ誤解ノ爲ニ誤ラレタルコトアル程ヲ著シキ一例ト謂フヘ
キナリ

三 蓄積却資金法

ピット銷却資金法ノ浮理ナコトハ一見明瞭ナルニ拘ルズ英國
下院ノ一委員會ハ漸ク千八百二十八年ニ至リテ國債ノ真正ナル減少ハ議入カ議出ニ
超過スルニ非ズンハ能ハスト言ヘル財政學ノ初等原則ヲ宣言シ翌年ニ至リテピット資
金法ニ改正ヲ加ヘテ國債委員會ハ依然存置セラレタルモ毎年一定ノ金額ヲ付與ス
ルニ代ヘテ額ノ多少ニ拘ラス歲入ノ歲出現過額ヲ與ヘテ公債ヲ買取スルコトナシ且
委員會ニ於テ買入ヲ終ルト同時ニ公債ハ銷却セラレタルモノト改正セリ此改正法ハ
聖本ノ修正ヲ加ヘラレタル外今日尙有効ニ施行セラレ年々之ニ充テル金額ハ蓄積
却資金ト稱セラル

千八百二十九年右改正案ヲ議決セル當時國會カ公言セル所ニ依レハ毎年三百萬磅内
外ノ剩餘ハ之ヲ得ルノ際定ナリシモ實際ハ此ノ如クナル能ハス國民ハ國債ノ減少ハ
リ租稅ノ減少ヲ望ムコト一層切ナリ新法實施以後未タ數年ヲ出テスニテ該資金ニ
充テヘキ剩餘額一百萬磅ヲ超ヘサルコト數數ナリキ故ニ若シ獨リ此法ニノミ依賴シ
タラントハ國債ノ銷却ハ容易ニ其目的ヲ達スヘカアララス是ニ於テ國會カ賦課シテ

國ヲス知ラスノ間ニ銷却セシメシカ爲メ即セラレタル方數二四アリ
 其一年金法千八百八年政府ハ公債所有者ヲ勸誘シテ公債ニ代ラレシメテ其身年金ヲ以テ
 セントモリ然レトモ第一回ノ總數ハ死亡統計ニ誤差アリシ爲メ夫數ニ後更ニ統計ヲ
 訂正シテ之ヲ賦金令尙ホ正確ナル統計ニ基テケル年金ハ郵便局ヨリ之ヲ送附者ニ費
 波シ其收入ハ之ヲ國債委員會ニ回付シテ公債ノ買入ニ充テラル此方法ニ依リテ終身
 年金ニ變更セラレタル公債額ハ千八百九十年ニ至ル迄(其後ノ報ナシ)五千五百万磅ニ
 達シ其中ニハ尙久シク年金ノ繼續スルノアリト雖モ政府ハ右ノ金額丈ノ國債ハ既ニ
 銷却セラレタルモノト看做スコトヲ得ヘシ
 一定ノ期限ヲ限レル年金法モ尋常同僚ノ歴史ヲ有シ千八百十九年以來定期間ノ年金
 ナリテ公債ニ代ヘンコトヲ勸誘シタルモ世人ハ多ク之ヲ希望セサシシカ如ク千八百
 九十年ニ至ル迄此法ニ依リ銷却セラレタル國債額ハ僅僅二千万磅ヲ出テス
 右ノ方法ノ多ク世人ニ歡迎セラレザリシコトモ其一因トナリテ千八百六十三年アラ
 フトスリン氏ハ政府ノ政局ヲシテ強ク其所有公債ヲ定期年金ニ代ヘシムルノ手段ヲ
 講セリ郵便貯蓄銀行及ヒ高等法院ハ貯金者及ヒ訟訴人ノ爲ニ買入タル多額ノ公債ヲ
 所有スアラフアラフストン氏ハ此公債ヲ凡テ銷却シ之ニ代ヘテ定期年金ヲ付與スルコト
 ト爲セリ然レトモ右ノ貯蓄銀行及ヒ高等法院ノ要スル所ハ一定定期間ノ年金ニ非ス
 テ永久的ノ債券ニ在ルヲ以テ何レモ受領スル年金中ヨリ毎年一定ノ金額ヲ積立テ其
 ノ一定額ニ達スルハ俟テ更ニ民間市場ヨリ所要ノ公債ヲ買入レ政府ハ更ニ之ヲ銷却

ス此ノ如クシテ兩者カ年年市場ヨリ買入ルル公債ハ即チ國債ノ銷却高ナリ故ニ且ニ
 國債銷却ノ上ヨリ甘ハ政府ハ敢テ右ノ兩機關ヲ類ハスチ俟タス直接ニ市場ヨリ公
 債買入チ爲スノ間ニシテ便ナルニ若カス而モ尙ホ此ノ如キ不便ナル手段ヲ經ル所以
 ノモノハ唯國會チ欺騙シテ銷却ヲ行ハントスルニ在ルノミ此法ニ依リ兩者ニ支拂フ
 ヘキ年金ハ恰モ政府ノ義務ナルカ如キ觀アリテ國會ノ異議ヲ招クコト尠キモ殊ニ國
 債銷却ノ爲ニ年年一定ノ金額ヲ積立ツルハ必ス多ク紛議ヲ生スルノ虞アレハナリ
 國會ニ於ケル普通ノ議員ハ此ノ如キ小策ヲ以テモ能ク欺クヘシト雖モ出納尙書ハ之
 カ爲ニ痛過サルヘクモアラズグラツドストン氏ノ方策モ亦他ノ欺騙主義ノ方法ト
 其運命ヲ同シクシテ其功チ費スル能コトハス恰モ神聖ナルカ如ク想像サレタル此等
 ノ年金ハグリスノ後繼者並ニ矧自身スラ唯表面之ヲ察重スルノミニシテ資金ノ必要ア
 ルニ當リテハ出納尙書ハ此等年金ノ期限ヲ延長シテ其額ヲ減スルノ手段ヲ採レリ而
 カモ口ニハ年金ノ成ルヘク速ニ支拂ハサルヘカラサルヲ觀クテ常トセリ現今ニ至リ
 テハ何人モ是等紙上ノ年金ニ欺騙セラルル者ナカレヘシ政府ノ報告ハ明カニ年金ノ
 内譯ヲ開示シテ出納尙書ハ之ニ依テ行ヘル國債銷却ヲ以テ自己ノ功ニ歸セリ此等
 ナル手續力過去ニ在リテハ如何ナル利益アリタリトスルモ今ニ至リテハ唯ニ之ニ奉
 獻セル小屬吏ニ衣食ノ資ヲ供スルニ過キサルナリ
 其二國會チシテ年年一定ノ金額ヲ國債銷却ノ爲ニ支出セシムヘキ一層有效ナル方法
 ハ千八百七十五年サースタフオードノスコート氏ニ依テ提案サレタリ氏ハ一方

ニ於テ國富ノ年々増進セルコトヲ示シテ國歩最モ顯赫ナリシ時ニ在リテ國債ノ爲ニ
 支出セル額迄ハ其支出ニ同意スルノ至當ナルヲ觀キ進テ千八百六十年ニ至ルマテハ
 毎年國債ノ爲ニ費ヤセル額二千八百萬磅ヲ下ラサルヲ示シ此額ヲ以テ勸カスヘカ
 ナル確定額ト爲サントスルニ在リ此中ヨリ國債ノ利息國債事務費及ヒ定期年金ヲ支
 拂ヒ其剩餘金ハ之ヲ新債却資金ト稱シ更ニ公債ノ買入ニ充ツ此計劃ニ由レハ國債ハ
 常ニ過速度ヲ以テ減縮セラルヘシ國債ノ買入却ト共ニ利息モ從テ減少シ利息ニ充
 ツヘキ金額ハ更ニ公債ノ買入ニ充當スルヲ得レハナリ而シテ尙ホ此計畫ヲ鞏固ニス
 ルカ爲メ短期ノ公債臨時ニ募集サルコトアルモ之ニ相當スル丈ノ金額ハ必ス右ノ
 確定ニ加算スルコトトナシ此方法ハ稍久シク嚴守セラレ置却却資金法モ併行レ
 買入ノ超過右ノ二千八百萬磅ヲ去テ尙ホ剩餘アルトキハ之ヲ新債却却資金ニ組入レ
 リ之ヲ要スルニノリスコトト氏ノ提案ニ係ル方法ハ各種ノ方法中最モヨク其目的ヲ
 達シタルモ不幸ニシテ氏ノ後繼者ハ後世子孫ニ對スル國民ノ義務ニ就テ氏ノ如キ高
 尙ナル理想ヲ有セス右ノ確定國債費額ハ千八百八十八年ニハ減セラレテ二千六百萬
 磅トナリ千八百九十九年ニ至リテハ更ニ減シテ二千三百萬磅トナレリ千九百年ヨリ
 千九百一一年ニ至ル戰時豫算ニ於テハ各種ノ銷却資金ハ悉ク停止サルニ至レリ
 近來政府ノ釐穀ニ就テ察スルニ財政當局者ハ未ダ全ク銷却資金ノ性質ヲ解セサルモ
 ノノ如シ千八百七十九年十月今ノ出納尙書ハ當時一千万磅ニ上レリ南弗戰費ニ向テ
 ハ如何ナル理由アルモ銷却資金ヲ充用スルニ同意スル能ハサル旨ヲ公言セリ此決

心ハ翌年ノ三月迄繼續スルカ是レ實ニ平和ノ際ニ於テ該資金ノ減額ヲ行フト等シク
 不當ナルモノナリ銷却資金ハ實ニ平和的ノモノナリ戰時ノ費用ニ對スル保障トシテ
 平和ノ日ニ年々掛金スルカ如シ戰時ニ於テ此資金ノ支出ヲ繼續スルハビツト銷却資
 金ノ過失ヲ再ヒスルモノナリ戰時ニ於テ此資金ノ支出ヲ停止スルハ實ニ合法ナルノ
 ヲナラス是レ實ニ資金設置ノ精神ナリ之ニ反シテ國民ハ財政當局者カ千八百八十八
 年千八百九十年及ヒ千八百九十九年ニ一時目前ノ小利ノ爲メニノリスコトト氏ノ創
 設セル永久ノ利益ヲ犧牲ニ供シタルハ大ニ之ヲ責ムルノ理由ヲ有ス若シモ此資金ヲ
 減スルコト無カリセハ南弗戰費巨額ノ出費ニ對シテモ増稅ヲ爲ササルモ直ニ用フル
 ナ得ヘキ金千二百萬磅ノ歲入ヲ有シタルヘキナリ
 以上列舉セル銷却法ノ外相繼人ナキ公債並ニ高等法院ニ於ケル請求者ナキ資金ヲ以
 テ買入銷却セル國債額八百萬磅以上ニ達シ又特ニ國債銷却ノ目的ヲ以テ個人ノ政府
 ニ寄付セル金額ヲ以テセルモノ亦殆ト百萬圓ヲ下ラス

國債發行償還及現在高種別表 (三十四年末)

種	類	起 債 高		償 還 高		未 償 還 高
		新 公 債	及 公 債	新 公 債	及 公 債	
七	分	一	一	一	一	
分	利	一	一	一	一	
付	付	一	一	一	一	
外	外	一	一	一	一	
國	國	一	一	一	一	
債	債	一	一	一	一	
及	及	一	一	一	一	
公	公	一	一	一	一	
債	債	一	一	一	一	
新	新	一	一	一	一	
公	公	一	一	一	一	
債	債	一	一	一	一	
及	及	一	一	一	一	
公	公	一	一	一	一	
債	債	一	一	一	一	

種 類	落債處 分ノ起 メタル モシ		殖産興 業ノ起 メタル モシ	
	起 債 高	償 還 高	起 債 高	償 還 高
舊 公 債	一〇,九七二,七二五	六,五八三,六三五		
秩 祿 公 債	一六,五六五,八五〇	一六,五六五,八五〇		
金 祿 公 債	一七三,九〇二,九〇〇	一四八,四七四,二五〇		二五,四二八,六五〇
舊神官配當公債	三三四,〇五〇	三三四,〇五〇		
小 計	二二五,九一〇,三三〇	一九六,〇九二,六一〇		二九,八一七,七四〇
九分利付外國債	四,八八〇,〇〇〇	四,八八〇,〇〇〇		
起 業 公 債	一二五,〇〇〇,〇〇〇	一五,五〇〇,〇〇〇		
中山道鐵道公債	二〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇		
鐵道補充公債	二〇,〇〇〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇		
鐵道公債	五〇,九一二,五〇〇	九,五八九,五〇〇		四一,三三三,〇〇〇
事業公債	一三一,四五二,一五〇	七,七四四,四五〇		一二三,七〇六,七〇〇
北海道鐵道公債	三,九一二,二〇〇			三,九一二,二〇〇

種 類	國債及 整理紙幣 爲起 メタル モシ		軍事 爲起 メタル モシ	
	起 債 高	償 還 高	起 債 高	償 還 高
臺灣事業公債	三,九三四,〇〇〇			三,九三四,〇〇〇
小 計	二二,一〇三,二〇五	五八,一五六,三五〇		一七二,八七五,七〇〇
海軍公債	一七〇,〇〇〇,〇〇〇	八二〇,三四〇〇		八七九,六六〇〇
軍事公債	一二四,九二〇,七五〇	八三三,九三〇〇		一一六,五八一,四五〇
征討費借入金	一五,〇〇〇,〇〇〇	一五,〇〇〇,〇〇〇		
小 計	一五六,九二〇,七五〇	三二,五四二,七〇〇		一二五,三七八,〇五〇
整理公債	一七五,〇〇〇,〇〇〇	六,三〇六,四〇〇		一六八,六九三,六〇〇
金札引換公債	一四,五九九,一五〇	一四,五九九,一五〇		
紙幣銷却借入金	二二,〇〇〇,〇〇〇			二二,〇〇〇,〇〇〇
小 計	二二,一五九,九一五	二〇,九〇五,五九〇		一九〇,六九三,六〇〇
合 計	八二五,四六二,三〇〇	三〇六,六九七,二一〇		五一八,七七五,〇九〇

國債種別累年比較表

年次	縣及藩債處分	殖産興業	軍事	國債及紙幣整理
十年	二二二,三〇八,四三九	二,四四〇,〇〇〇		二,一〇五,九五〇
十五年	二〇八,〇三二,七八三	一,六四九,〇五〇		五,八三〇,四五〇
二十年	一四七,二七九,四三二	三〇七,三〇,三五〇	一,一〇〇,〇〇〇	四九〇,二二八〇〇
二十五年	七〇,五三九,八六一	二,〇〇〇,〇〇〇	一六,九八〇,〇〇〇	一五七,三七四,四五〇
三十年	三四,七七六,二七八	四一〇,〇〇〇,〇〇〇	一三二,六一六,六〇〇	一七四,五六四,二五〇
三十三年	三〇,〇三七,一九五	一六二,三三五,三五〇	一二五,三七八,〇五〇	一六八,六九三,六〇〇
三十四年	二九,八一七,七四〇	一七二,八七五,七〇〇	一二五,三七八,〇五〇	一九〇,六九三,六〇〇

(備考) 軍事及紙幣銷却ノ爲メ借入レタルモノ及大藏省證券ヲ省ク

第七章 地方債

緒論

第一款 地方債研究ノ必要

自治ノ觀念發達シ公共團體ノ設定ヲ見ルニ及ヒ之カ財政策トシテ地方稅地方債ノ必要ヲ來スハ當然ノ事理ニシテ其大體ノ主旨ハ地方稅ノ章節ニ於テ既ニ一言セテ所ナリトスレトモ國家ノ財政ニ於テ租稅ハ公債ニ先テ發達セルカ如ク地方公共團體ノ財政ニ於テモ地方稅ハ團體ノ設立ト同時ニ之カ收入ノ重要ナル方法ト認メラレシモ地方債ハ著シク晚レテ發生シ隨テ地方債ニ關スル學說法規ハ之ヲ地方稅ニ比スレハ尙ホ比較的ニ幼稚ニシテ不備缺漏ノ嫌尠シト爲ササルナリ

茲ニ地方債研究ノ必要ヲ説ク所以ノモノハ一ニ近時地方債ノ發達著シク其増加ノ趨勢ハ必ス將來ニ於テ財政上ノ一大困難ヲ釀成スルノ危險ヲ有スルニ在リ固ヨリ文化ノ發達ハ富ノ増殖ト相待チテ國債地方債ニ輪ナク逐次其額ヲ増加スルハ社會ノ大勢ニシテ決シテ非難スヘキモノニ非サルモ特ニ地方債ニ對シテ之カ發達ニ對シ之カ警戒ヲ加フルノ要アルハ

第一 地方債ノ起債ハ國債ノ起債ニ比シテ濫用ノ弊害大ナルコト

第二 地方財政ハ國家財政ニ比シテ其基礎薄弱ナルコト

ノ二點ニ職由スルモノナリ換言スレハ國債ハ其事體ノ比較的重大ニシテ國富ヲ
 擧クテ擔保ト爲シ中央政府ノ慎重ナル措置ト國民全體ノ周密ナル監督ニ依ルヲ
 以テ比較的濫用ノ弊害尠キノミナラス總令多少ノ濫用ニ因リ財政上ノ困難ヲ來
 スコトアランモ國家其モノノ信用ハ國庫ノ總額ト相待テテ財政ノ紊亂破綻ヲ來
 スコト尠カルヘキモ地方債ハ地方團體ノ信用ト一地方ノ富ヲ基礎ト爲シ一地方
 ノ經費ヲ支辨スヘキモノナルヲ以テ濫用ノ弊害比較的多クシテ而モ財政上ノ紊
 亂破綻ヲ來スコト尠カラサレハナリ

地方團體ノ性質ハ大體ニ於テ國家ト會社ノ中間ニ位スルコトヲ知ラハ地方債カ
 大體ニ於テ國債ト社債ノ中間ニ位スヘキコト又明カニシテ自ラ本問題ヲ解釋ス
 ルニ足レリ今便宜ノ爲メ地方債ト國債ト相異ナレル重ナル點ヲ列舉シ地方債ノ
 増加ハ國債ノ増加ト同一ノ見解ヲ以テ解釋スヘカラサル所以ヲ明カニスヘシ

起債ノ主體	國	地方債
	國家	公共團體
公債ノ種類	國債	地方債
異同ノ標準	國家	公共團體

債權者

國民全體(時ニ外國人)

起債ノ地域

全國全般(時ニ外國)

公債ノ種類

非常公債及ヒ財政上ノ平常公債ヲ
原則トス

公債ノ體様

起債額多ク期間ハ長期ニシテ比較
的低利ナルヲ原則トス

起債ノ方法

一般募集ヲ原則トス

公債ノ管理

借換ヲ爲ササルヲ原則トス

公債ノ償還

償還期限不定期ニシテ且期間長ク
償還基金法ニ依ラサルヲ原則トス

地方一部ノ國民ニ限ルヲ原則トス

一地方ニ限ルヲ原則トス

經濟上ノ平常公債ヲ原則トス

起債額少ク期間ハ短期ニシテ比較
的高利ナルヲ原則トス

借入ヲ原則トシ募集ノ場合ニハ限
地募集ヲ原則トス

借換ヲ爲ササルヲ原則トス

償還期限定期ニシテ且期間短ク
償還基金法ニ依ルヲ原則トス

地方債ノ國債ト其趣チ異ニスルコト上表示ス所ノ如シ而シテ今ヤ地方債ハ年ヲ
 追フテ遞増シ停止スル所ヲ知ラス固ヨリ發達ノ初期ニ屬スルヲ以テ未タ之カ弊
 害著シキヲ見ルコトナキモ地方制度ノ設備日猶ホ淺ク地方財政ノ頗ル幼稚ナル
 現時ノ我邦ニ於テ地方債ノ過去及ヒ現在ヲ以テ將來ヲ付度スレハ之カ研究ヲ試
 ムコト蓋シ今日ノ急務ナリト謂フヘシ

第二款 地方債増加ノ趨勢

地方債ハ最近五十年間ニ於テ著シク長足ノ進歩ヲ來セルコトハ公債發達ノ章ニ於テ一言セル所ナリ今多クノ著書ニ於テ例示セル統計及ヒ我邦ニ於ケル地方債ノ概況ヲ摘載シテ其増加ノ趨勢ヲ示セハ左ノ如シ

英蘭土及ヒ威西ノ地方債ハ一千八百七十五年ニ於テハ僅ニ九千二百萬磅ニ過キサリシモ一千八百八十年ニハ一億四千四百萬磅ニ上リ一千八百八十八年ニハ一億九千二百萬磅ニ遞増シ平均一箇年八百萬磅ノ割合ヲ以テ増加シタリ蘇格蘭及ヒ愛蘭土ハ文化發達ノ度比較的的低ク都市ノ數少ク且小ナルカ爲メ英蘭土及ヒ威西ニ比シテ遙ニ下レルモ猶四千萬磅以上ニ達シ倫敦市ノ如キハ現時四億圓ニ上ルニ至レリ

佛蘭西ニ於テモ第二帝國ノ設立以前ハ諸縣ノ地方債ハ全クナカリシモ那破翁三世即位以降地方債ハ非常ノ速度ヲ以テ増加シ巴里市ヲ除キテ一千八百六十二年ニハ僅ニ千三百六十萬磅ニ過サリシモ一千八百六十九年ニハ二千三百萬磅ニ上

リ一千八百七十八年ニハ三千三十萬磅ニ遞増シ巴里市ノ如キハ現時二十二億法ノ多キニ上レリ

伊太利地方團體ノ財政ノ如キハ其富ノ程度ニ比シテ既ニ地方債過多ノ弊害ニ陥レルモノニシテ一千八百八十五年ニハ總額三千五百三十萬磅ニ上リ所在破綻ニ瀕セル自治團體數カラス「プロレンス」「チーブルス」諸市ノ如キハ債權者ト協議ノ結果市債ノ契約條件ヲ變更シ漸ク財政ノ破綻ヲ免ルルモノノ如シ

北米合衆國ニ於テハ一千八百四十年代ニ於テ「ミスシッピイ」外各州ニ於テ負債ノ強制取消利子ノ引下支拂停止ヲ爲セシコトアルハ前ニ一言セル所ナリ一千八百六十年ニ於テハ各種ノ地方債ヲ合スルモ一億弗ヲ超エサリシモ一千八百七十年ニ至リテハ五億一千五百萬弗ニ上リ一千八百八十年ニハ八億二千二百十萬弗ニ遞増シタリ

今最近政家年鑑ニ依リ各國ノ地方債ヲ見ルニ次ノ如シ

各國地方債種別比較表

(單位萬圓)

國名	縣及州債	郡市町村債	合計
英吉利	三〇七、六二八	—	三〇七、六二八
北米合衆國	四五、七九九	一八一、二七〇	二二七、〇七〇
佛蘭西	一六、〇九八	一三九、九三一	一五六、〇二九
伊太利	六、三八四	四五、六九三	五二、〇七八
瑞典	二七二	一〇、八四六	一一、一一八
伯刺西	九、八九二	—	九、八九二
瑞西	九、八六〇	—	九、八六〇
露西亞	—	七、二〇〇	七、二〇〇
加奈太	六、六〇一	—	六、六〇一
丁抹	一、二五九	五、三三九	六、五九九

日本	白耳義
一、〇九五	一、二四一
一、八三三	—
三、〇七六	一、二四一

本表ハ其材料甚タ不備ナリト雖モ各國地方債ノ巨額ナルト我邦地方債ノ創始後日猶淺ク自治團體ノ財政上ノ基礎未タ薄弱ナルニ拘ラス財政上ノ統計ニ於ケル他ノ項目ニ比シ著シク増加ノ比率大ナルヲ見ルヘシ

我國ニ於ケル地方債ハ二十三年地方制度ノ改正ト共ニ創始セラレタルモノニシテ初年末現在高ハ僅ニ七十二萬圓ニ過キサリシモ三十三年末ニ至リテハ三千五百七十七萬圓ノ多キニ上リ一箇年平均三百五十萬圓ノ増加ヲ爲セリ乃チ十一箇年間ニ五十倍ノ増加ヲ見シモノニシテ増加ノ激甚ナル驚クヘキモノアリ今地方債ノ各種ニ就テ之カ累年ノ現在高ヲ示セハ次ノ如シ

地方債累年種別比較表

(單位千圓)

年 別	府債	縣債	郡債	市債	町債	村債	債組合	計	三年以 内地方債		前年 比増 加歩合
									内	外	
二十三年	—	570	—	150	—	—	—	720	—	720	—
二十四年	138	1225	—	833	—	—	—	2238	—	2238	195
二十五年	80	1235	—	296	—	—	6	2429	—	2429	101
二十六年	—	159	—	701	—	—	—	909	—	909	113
二十七年	—	381	—	759	—	—	—	1001	—	1001	10
二十八年	—	339	—	710	—	—	—	1099	—	1099	9
二十九年	—	330	6	809	—	—	—	1158	—	1158	6
三十年	50	449	—	833	—	—	—	1376	—	1376	5
三十一年	212	703	—	1101	—	—	—	2016	—	2016	4
三十二年	233	849	—	1466	—	—	—	2638	—	2638	—

三十三年	230	999	—	1889	—	—	—	3076	—	3076	—
			15	1889	—	—	—	3091	—	3091	—
				1889	—	—	—	3076	—	3076	—

第三款 地方債増加ノ原由

緒論

地方債ノ増加ニハ一千八百七十年後巴里市ノ普佛戦争ノ際ニ於ケル破損修理ノ爲メ起債セルカ如キ一千八百四十五年後北米合衆國ノ地方自治團體ノ分權ノ革新ニ因ル起債ノ如キ時ト處ニ依リ特種ノ原因ニ基クモノナキヲ保セサレトモ大體ニ於テ地方債増加ノ原由ハ又同時ニ國債増加ノ原由ト相一致スヘキハ言テ俟クサル所ニシテ是レ本編緒論ニ於テ縷述セル所ナリ

地方債増加ノ原由ニシテ地方債ノ特色トシテ看ルヘキモノハ第一地方自治團體其モノニシテ第二ハ又岐レテ二者ニ大別スルコトヲ得ヘシ一ハ地方ニ於ケル支出ノ増加ニシテ一ハ地方ニ於ケル支出ノ増加ニ對スル地方債ノ必要ナリ前者ヲ稱シテ地方ニ於ケル起債ノ必要ト云ヒ後者ヲ稱シテ地方ニ於ケル地方債起債ノ必要ト云フ

地方ニ於ケル債務發生ノ必要トハ其債務ノ國債ナルト地方債ナルトニ論ナク其募集ニ依ルト借入ニ依ルトヲ問ハス地方ニ於ケル支出遞増ニ伴フ起債ノ必要ヲ指スモノニシテ再分シテ甲都市ノ膨脹乙社會政策主義ノ二ト爲ス

地方ニ於ケル地方債起債ノ必要トハ地方ニ於ケル起債カ國債ニ依ラスシテ地方債ニ依ルヘキ所以ヲ指スモノニシテ再分シテ甲地方分權ノ伸張(中央財政ノ膨脹)乙代議政體ノ組織(限地的公債)ノ二ト爲ス

而シテ其地方債ノ特質ニ至リテハ大體ニ於テ又地方税ノ特質ト相異ナル所ナシトス(地方税論參照)

第一項 地方自治團體

地方自治團體ノ經費ノ増加ハ大體ニ於テ文化ノ進歩ト人口ノ増殖ニ伴フ必然ノ結果ニシテ或ハ中央財政ノ膨脹ニ伴ヒ或ハ地方特有ノ事情ニ隨ヒ一時ニ資金ヲ要スルカ爲メ止ムヲ得ス地方債ノ手段ニ訴フルモノ尠カラサルヘシト雖モ其經費遞増ノ主因ニ至リテハ地方自治團體其モノノ特質ニ歸スヘキモノアリ其一ハ

黨派ノ關係ニシテ其二ハ地方的感情ナリ

現時我邦ノ地方財政ハ地方的ノ利害黨派上ノ情實ニ依リ團體財政ノ如何ヲ省ミス或ハ明リニ寄附補助等ヲ敢テシ無益ナル事業ノ分配ニ依リテ經費ノ濫出ヲ見ルハ一般ニ承認セララル所ニシテ其重ナル現象ハ明カニ地方財政ノ狀況ニ依リテ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ乃チ土木費ト地方財政ノ關係ニ就テ見ルモ地方税ニ於テ土木費ノ總額ノ四分ノ一ヲ占ムルハ前ニ一言スル所ニシテ租稅論地方稅論參照地方債ニ至リテハ猶甚シキモノアリ乃チ地方債現在總額三千七十六萬圓中二千九百八十五萬圓ハ土木費ニシテ實ニ總額ノ九割七分ヲ占メ教育費勸業費舊債償還費衛生費等僅ニ其殘額三分ヲ分取スルニ過キス地方財政ノ狀態又實ニ痛嘆ニ堪エサルモノアリ况ンヤ是等九割七分ノ土木費ハ大半ハ天災地變ニ伴フ復舊補修費トシテ消極的ニ費消セラルルノミナラス其殘部ハ地方的情實ニ制セラレ黨派ニ利用セラレ奸商汚吏ト相結ンテ巨利ヲ漁スルノ具トナルノ機多キニ至リテハ近ク北米合衆國ノ地方債ノ歴史ニ徵スルモ地方政務ノ刷新誠ニ一日ヲ忽ニスヘカラサルモノアリ今大藏省ノ調査ニ係ル地方債ノ起債目的別表ヲ見ルニ次

地方債現在高起債別累年比較表(單位千圓)

年度	府債	縣債	郡債	市債	町債	村債	組合債	未三十三計	年三十末二
教育費	—	—	—	四八、	一四六、	九九、	—	三三六、	二二二、
衛生費	—	八五、	—	—	—	—	—	八六、	八五、
土木費	二二〇、	九、三七九、	三四、	一八、八四〇、	六五、	二五〇、	一、〇五八、	二九、八五一、	三三、九九九、
勸業費	—	三四、	四八、	—	一四、	一八九、	—	二八五、	一七〇、
舊債償還	—	—	一〇、	—	四〇、	二二、	一三六、	二〇八、	一四〇、
計	二二〇、	九、四九九、	一三五、	一八、八八九、	二六六、	五六二、	一、一九五、	三〇、七六九、	二四、六二八、

年三十末一	年三十末十	年二十末九	年二十末八	年二十末七	年二十末六
二〇四、	一〇五、	四二、	二五、	二二、	九、
八五、	三七、	四〇、	二、	四、	四、
一九、七三八、	一三、四九〇、	一〇、三五二、	一〇、一八七、	九、九五三、	九、〇七八、
八五、	七五、	七五、	七五、	七五、	—
一五〇、	二九、	七、	八、	五、	一、
二〇、二六四	一三、七三八、	一〇、五一八	一〇、二九九	一〇、〇六一、	九、〇九三、

第二項 都市ノ膨脹

軌近都市ノ人口ハ非常ナル速度ヲ以テ増殖シ十九世紀ノ劈頭ニ於テ九十六萬ヲ超エサリシ倫敦市ノ人口ハ四百萬ヲ超過スルニ至リ五十六萬ニ足ラサリシ巴里市ノ人口ハ三百萬ヲ超過スルニ至リ二萬以上ノ人口ヲ有スル都市四箇所ニ過キサリシ北米合衆國ハ一千八百八十年ニハ百二箇所ニ増加シ一千八百八十一年ニハ英國ニテハ三千以上ノ都市ノ人口ハ總人口ノ六割六分強ニ達シ二萬以上ノ都

市ノ人口ハ獨逸ニテハ總人口ノ一割六分合衆國ニテハ一割八分ノ割合ヲ占ムルニ至レリ此ノ如ク都市ノ人口ノ増加スルハ單ニ人口ノ絕對ニ増加スルニ原由スルニ止マラスシテ地方人民ヲ都市ニ吸收スルモノナリ換言スレハ小都市ノ發達ヲ中止シテ大都市ノ膨脹ヲ來スモノナリトス

都市ノ膨脹カ二様ノ方面ニ依リテ増加スルカ如ク都市ノ膨脹ニ伴フ都市ノ經費モ亦二様ノ方面ニ依リテ増加スルモノナリ換言スレハ人口増加ノ比率ニ伴フ増加ノ外人口ノ増加ニ依リテ種ノ經費ヲ増加スルモノナリ即チ水道下水港灣道路堤防排水瓦斯電燈公園病院其他恤救衛生ニ關スル設備學校圖書館美術館其他教育ニ關スル設備市場埋葬地鐵道軌道等ノ施設ノ重ナルモノハ多ク都市ノ人口カ一定ノ程度以上ニ膨脹スルニ伴ヒテ發生スルモノナリ今一千八百八十年ニ於ケル北米合衆國ノ地方債八億二千二百十萬弗ノ負擔ノ分配ヲ見ルニ左ノ如シ

學事組合

一七五〇〇〇〇〇弗

村債

三一〇〇〇〇〇〇

人口七千五百人以下ノ都市ノ市債

五五八〇〇〇〇〇

郡債

六四〇〇〇〇〇〇

人口七千五百人以上ノ都市ノ市債

六四三、八〇〇、〇〇〇

即チ人口七千五百人以上ノ都市ノ市債ハ地方債總額八割以上ヲ占ムルヲ見ルヘシ

尙ホ上述ノ所論ニ對スル實例ヲ示セハ倫敦市ノ市債ハ四十萬磅ヲ超エ大不列顛ノ地方債總額ノ六分ノ一ニ當リ殆ト蘇格蘭土及ヒ愛蘭土ノ地方債ノ總額ニ相伯仲セリ又巴里市ノ市債ハ九千八百萬磅ヲ超エ地方債總額ノ七割ヲ占ム我邦ニ於テモ都市ハ年年地方債中ノ首位ニ居リ三十三年末ノ統計ニ徵スルモ地方債總額三千七十六萬圓中市債ハ千八百八十八萬圓ヲ占メ總額ノ六割一分強ニ當レリ(地方債年種別比較表参照)

第三項 社會政策主義

瓦斯電燈水道鐵道軌道ノ諸事業ハ之ヲ私人ノ經營ニ放任スヘキカ國家又ハ公共團體ノ手裡ニ收ムヘキカハ既ニ學說實際ニ於テ偏ク研究セラルル所ニシテ前ニ

官業論ノ下ニ於テ續述セル所ナリ本節ニ於テハ地方ニ於ケル起債ノ必要大ナルヘカラサル原由ヲ叙述スルニ非スシテ何故ニ事實起債ノ必要大ナルヤヲ叙述スルヲ要ト爲スヲ以テ其都市ノ事業ト爲スノ良否ハ又茲ニ問フ所ニ非ス故ニ茲ニハ社會政策主義ノ興隆ハ新ニ從來私人ノ經營ニ放任スヘキ事業ヲ都市ノ公共團體ノ事業ト爲シ從來私人ノ經營ニ係レル事業ヲ都市ノ公共團體ニ買上ケ爲メニ經常臨時共ニ著シク公共團體ノ財政ノ膨脹ヲ來シ延テ之カ設備買上ニ伴フ臨時巨額ノ支出ヲ要スルコト多キヲ加フルニ至リシコトヲ一言スルニ止ムヘシ

各國ノ實例ニ徴スルモ水道瓦斯電話電燈鐵道軌道ノ類ハ何レノ時ト處ヲ問ハス同時ニ同一ノ都市ニ於テ並立スルコト稀ナリ是レ自然的獨占事業ノ特色ニシテ又公設主義ノ唱道セラルル所以ナリ固ヨリ或程度マテハ同一ノ都市ニ於テ同時ニ並立スルコトナキヲ保セサルモ互ニ同一ノ利害關係ノ下ニ於テ競争スルニ非スシテ互ニ地域ヲ限リテ其軫域ノ中ニ分立スルニ過キス競争ハ必ス二者ノ聯合ヲ來スニ非スハ必ス一方ノ敗滅ヲ來スモノナレハナリ

註一、北米合衆國ニ於テ水道ヲ有スル都會ハ一千四百〇三箇所ニシテ内並立制ヲ執レ

ルモノ僅ニ七箇所ニ過キス
英國ハ一千八百八十四年度ニ於テ地方自治體中半數ハ公設ノ水道ヲ有シ百二十五箇ノ自治體ハ瓦斯事業ヲ營ミ百五十五箇ノ市街鐵道中二十七箇所ハ地方自治體ニ所屬ス
獨逸ニ於テハ總テ公設ニ保リ瓦斯事業ハ一千八百八十七年ニ於テ四百八十二箇中二百二十八市ノ公設ニ屬セリ

第四項 地方分權ノ伸張(中央財政ノ膨脹)

自治制度ノ發達ニ伴ヒ行政上分權ノ歩武ヲ進ムルハ近時歐米列國ニ於ケル大勢ニシテ或ハ地方機關ノ設定若クハ組織ノ變更ニ依リ或ハ地方機關ノ中央機關ニ對スル關係ノ變更ニ依リ或ハ地方機關ト中央機關ノ分配ニ依リ漸次地方ノ行政權ノ範圍伸張セラレ延テ地方團體ノ經費ハ著シク遞増セラルルニ至レリ隨テ國家自體カ之カ財政ノ衝ニ當ルコト事實不能ナルノミナラス既ニ自治ヲ認メ分權ノ歩武ヲ進ムル以上ハ之ニ對シテ又或程度マテ財務行政上ノ自治ヲ認ムルコトナクハ地方自治其モノノ完全ナル發達ヲ期シ難キハ言テ俟タサルハ既ニ地方

税ノ下ニ於テ叙述セル所ノ如シ

近時國家財政ノ膨脹ハ益々地方財政ニ對スル國庫ノ負擔ヲ減セントスルニ際シ財政上ノ地方分權ヲ認ムルハ已ムヲ得サル條件ニシテ又自治ノ圓滿ナル發達ヲ來ス爲メ必要ナルゴトハ上述スル所ノ如シ是レ各國共ニ公共團體ニ對シ起債ノ權限ヲ認メタル理由ニシテ(府縣制第一一七條、郡制九五條、市制第一〇六條、町村制第一〇六條參照近時其權限ハ比較的伸張セラレタル傾向ナシト爲ササルナリ)

第五項 代議政體ノ組織(限地的公債)

地方財政ニ對シ國庫ノ補助ヲ與フルコト能ハサルハ前項ニ叙述セシカ如ク單ニ財政ノ膨脹ノミニ止マラス又其公債ノ性質カ限地的ナルニ原由スルコト大ナリトス殊ニ地方自治制ト相關聯シテ發達スル代議政體ノ組織ニ於テハ國庫カ全國均一ノ割合ヲ以テ地方財政ヲ補助スルハ敢テ難シト爲ササルモ特ニ一地方ノ爲メニ補助ヲ與ヘントスルハ地方的感情ノ結果容易ニ奏效ヲ期シ難キノミナラス一度國庫補助ノ慣例ヲ作ルトキハ所在各地方議員ノ朋黨比周ト爲リ歲計上冗費

ヲ増加シ爲メニ來スヘキ害毒ノ大ナルハ又敢テ豫想スルニ難カラサルヘキナリ然レトモ此問題ハ事實トシテ國庫經濟ト地方經濟トノ軫域ヲ立ツルニ困難ナル場合尠シト爲サス極言スレハ苟モ國家又ハ公共團體ノ行動ハ少クトモ法理上形式上公共的ノ性質ヲ有シ直接間接ニ國家全般ニ對シ利害關係ヲ有セサルハナシ治水築港ノ工事ノ如キ衛生交通ノ事業ノ如キ其利害ハ直接ニ數地方ニ亘ルモノアリ或ハ電燈瓦斯ノ事業ノ如キ其直接ノ利害關係ハ一都市ニ僻在スルコトアリ皆程度ノ論ニシテ經費ノ種類ニ依リ直チニ斷定シ難キモ其事業ノ大小ト其地方及ヒ中央財政ノ狀況ニ依リ國庫ヨリ一部ノ補助ヲ仰クコトアルヘキハ言ヲ俟タサル所ナリ

第一節 地方債ノ起債及ヒ償還

第一款 地方債ノ起債

地方債ノ起債ハ借入ヲ原則トシ募集ヲ例外トスルコト正ニ國債ト相反セリ其原由多アルヘキモ要スルニ左ノ三點ニ歸著スヘシ

一 地方團體ノ信用ハ政府ノ信用ニ比シテ比較的薄弱ナルコト

二 實質ニ於テハ限地發行ト爲ルヲ以テ他ノ地方ニ在ル者ハ應募償還利子ノ受取等總テノ手續ニ不便ナルコト

三 發行額少キカ故ニ融通ノ範圍狹ク授受買賣ノ便利少キコト

現ニ我國ノ地方債ニ徴スルモ明治三十一年度ニ於テ三府四十一縣ノ地方債中公債募集ノ方法ニ依リ證書ノ發行ヲ爲セシモノハ三府十一縣ニ過キスシテ他ハ多ク普通ノ借入金ニ屬セリ

上述セル地方債ノ不便ヲ避クル方法トシテ政府自ラ代リテ公債ノ募集ヲ爲スコトアリ英國ノ地方政務院(Local Government Board)ハ其一例ニシテ同院ハ一方ニハ地方自治體ノ公債發行ニ對シ其資金ノ用途募集償還ノ手續ニ付キ認可權ヲ留保スルト共ニ一方ニハ國會ニ稟議シテ地方自治體ニ貸與スルカ爲メ一定ノ金額ヲテ自ラ公債ヲ發行スルノ協賛ヲ得ルノ制アルヲ以テ危險ノ負擔ナクシテ自ラ公債ヲ發行シ一ハ地方財政ノ負擔ヲ輕減シ一ハ中央政府監督ノ實ヲ明カニスルノ便アリトス

地方債借入ハ方法ニハ私人ヨリ普通ノ方法ニ依リテ借入ルルコトアリ然レトモ國庫カ補助ノ意味ヲ以テ貸主ト爲リ又ハ借入ノ便宜ヲ與フルコト又尠シト爲サス或ハ國庫ハ一定ノ事業ノ爲メニ特ニ金庫ヲ設置シ地方自治體ヲシテ其事業ニ要スル資金ヲ該金庫ヨリ借用セシムル制アリ或ハ利殖スヘキ基金ヲ有スル場合ニ便宜其一方法トシテ地方自治體ニ之ヲ貸付クルコトアリ或ハ土地抵當銀行農業銀行等ヲ設立又ハ監督シ之ニ多少ノ特權即チ主トシテ證券ノ發行權ヲ付與シテ地方自治體ニ長期ノ貸附ヲ爲サシメ事實銀行ヲシテ地方自治體ニ代リテ公債ノ發行ヲ爲サシムコトアリ其例一ニシテ止マラス

- 註一、佛蘭西ハ一千八百六十八年道路修築ノ爲メ金庫ヲ設置シ一千八百七十八年新學制ノ施行ニ依リ學校建築ノ爲メ金庫ヲ設立シ共ニ公債ノ利子ヨリ低利ヲ以テシ供給資金缺乏ノトキハ爲メニ自ラ公債ヲ發行シテ之カ供給ニ充ツルナ例ト爲シタリ
- 註二、獨逸ニ於テハ普佛戰爭ニ由リテ得タル償金ノ一部ヲ以テ廢兵補助基金ト爲シ該基金ハ便宜利殖ノ爲メ自治體ニ貸與セリ
- 註三、歐洲大陸ニ於テハ最近此種類ノ銀行盛ニ勃興シ地方團體ノ依リテ利便ヲ享ケルモノ亦尠シト爲サス我邦ニ於テモ近年勸業銀行、興業銀行、拓殖銀行等ノ設立アリ殊ニ農工銀行ハ明治三十一年ノ開始ニ係リ日尙ホ淺シト雖モ同年末ニハ設立ノ數四十一

實所ニ上リ貸付ニハ三十年以内ノ年賦償還貸付ノ制ト五年以内ノ定期償還貸付ノ二種ヲ設ク年賦償還貸付金總額三百六十八萬餘圓中公共團體ニ貸付クシ分二十三萬餘圓定期償還貸付金總額五十三萬餘圓中公共團體ニ貸付クシ分十一萬ニ上レ

第二款 地方債ノ償還

地方債ハ經濟上ノ平常公債ヲ原則トシ非常公債又ハ財政上ノ平常公債ヲ例外ト爲スハ上述セル理論ニ徴スルモ自ラ明カニシテ又事實ノ立證スル所ナリ既ニ經濟上ノ平常公債ニシテ而モ國債ニ比シテ比較的少額ナルヘキモノタル以上ハ國債ノ如キ資金ノ需要急促ニシテ且巨額ナルヘキノ理ナク延テ地方團體ハ豫メ其起業ノ設備ニ應シテ之カ起債償還ニ關スル手續ヲ定ムルコトヲ得ヘク又之カ決定ハ地方團體ノ信川扶持ノ爲メ必要ナル條件タリ

地方債ハ猶ホ社債ノ如シ地方團體ノ信用ヲ以テ地方債ヲ起ス必スヤ其起債ト共ニ増稅財產收入起業利益等ニ依ル償還ノ途ヲ定メ之カ整理ヲ急ニセスハ非ス是レ地方團體ノ生命及ヒ產業上ノ變遷ハ國家ニ比シテ短期ニシテ且常ナラサルノミナラス地方團體ノ財源ハ國家ニ比シテ著シク簡單ニ且狹少ホレハナリ故ニ

地方債ニハ無期ノ公債ハ理論上認ムヘカラサルノミナラス事實亦起債ノ能力ヲ有スルコトナシ管ニ無期ノ公債ノミナラス有期ノ公債ト雖モ其定額支拂公債ナルト隨時支拂公債ナルトヲ問ハズ短キニ失シテ一部ノ地方人民ニ對シ著ク負擔ヲ増加スルノ愚ヲ學フヘカラサルト共ニ又長キニ失シテ負擔ヲ將來ニ貽シ團體自體ノ起債力ヲ減失セシムヘカラス固ヨリ程度ノ論ニシテ一律ヲ以テ斷定シ難キモ各國皆大體ニ於テ此償還期間ノ最長限度ヲ定メサルモノハ少シ英國ノ地方債條例ニ於テハ二十箇年ヲ極度トシ佛國ニ於テハ十二箇年トシ我邦ノ府縣制郡制市町村制ハ共ニ据置期限ヲ三箇年以内トシ償還期間ハ三十箇年ヲ最長限度ト爲セリ

上述ノ如ク地方債ノ性質ハ國債ト其趣ヲ異ニスルコト多キヲ以テ所謂償還基金法ノ如キモ地方債ニ於テハ其弊害ヲ見ルコト著シク尠キノミナラス却テ地方團體ノ信用ヲ維持シ償還ノ確實ヲ保障スル爲メ多少ノ利便ト爲ス所尠シト爲サス是レ比較的信用薄弱ナル團體カ少額且少數ニシテ短期ナル債務ヲ負ヘル場合ニ於ケル自然ノ數ナリトス隨テ公債ノ管理主トシテ借換ノ如キハ事實ニ於テ行ハ

ルルコト甚タ種ナリトス是レ平常無事ノ際ニ起債セラレタル公債カ短期間ニ於テ著シク利子ノ高低ヲ見ルコト有ルヘカラサレハナリ勿論地方團體ハ其起債ノ利子國債ノ利子ニ比シテ多少高カルヘキモ(我邦ノ府縣債ノ利率ハ五分乃至八分ニシテ市町村債ノ利率ハ四分乃至一割二分ナリ)是レ地方團體ノ信用ノ厚薄ニ基因スルモノニシテ時ノ經過ニ依リテ左右セララルモノニ非ス隨テ若シ單純ナル機關カ地方債ニ對シ複雜ナル借換ヲ行ヒ之カ成效ヲ告クルコトアレハ是レ該地方債ハ著シク拙劣ナル過誤ニ因リテ不當ニ不利益ナル條件ヲ以テ發行セラレシコトヲ反證スルモノニシテ蓋シ此ノ如キ失態ハ事實トシテ未タ發生セルコト非サルヘシ

第二節 地方債ノ監督

第一款 地方債監督ノ必要

地方債ノ増加ト之ニ伴フ濫用ノ弊害ハ本章緒論ニ於テ既ニ其大要ヲ叙述シタリ我邦ノ如キハ地方制度ノ幼稚ナル未タ濫用ノ弊害ヲ見ルニ至ラサルモ歐米各國

ニ於テハ伊太利ノ都市ノ如ク既ニ負擔重キニ失シ所在債權者ト協定シテ契約ノ條件ヲ變更シ以テ財政ノ破綻ヲ防遏スルモノ多ク殊ニ北米合衆國ニ至リテハ地方債濫用ノ弊害著シクアダムス氏ノ示ス所ニ依レハ一千八百八十五年前後ニ於テ紐育費府ビッポルクシンシナチーノ各市ハ市民一人ノ市債分頭額九十弗ヲ超ニユースエルシエリサベスノ諸市ハ人口二萬八千ニ過サルモ分頭額ハ百九十五弗ニ上リバマス市ノ如キハ人口八千ノ小市ニシテ二百十六弗以上ノ分頭額ヲ負擔シタリ此ノ如ク地方債ノ濫用若シキヲ加フルニ至リテハ勢ヒ居民ノ移住ヲ促シ資本ノ流出ヲ來シ所在地方ノ經濟上ノ發達ヲ阻礙スルコト一ニシテ足ラス而シテ此等弊害ノ原由ヲ見ルニ主トシテ地方債ヲ起セシ事業其モノノ失敗ニ非サレハ起業家及ヒ地方機關ノ私曲ニ基因セサルコト稀ナリ

第一 地方債ヲ起セシ事業其モノノ失敗ハ一千八百三十年ヨリ一千八百六十年ニ至ル合衆國各州ノ起業熱物興ノ時代ニ伴ヒシモノニシテ當時各州到ル所或ハ銀行ヲ設立シ或ハ運河鐵道鑛港ノ事業ニ從事シ而モ無經驗者流ノ無責任ナル企業熱ハ殆ト其大部ヲ辜ケテ失敗ニ了ラシメ唯巨額ノ州債ヲ貽シテ所在人民ニ苛

重ノ負擔ヲ荷ハシムルニ至レリ彼ノ(ミスシツピー)其他各州ニ於ケル公債ノ取消
利子ノ強制引下支拂停止ノ不法行為ヲ敢テセシハ又此際ニシテ爾後各州ノ憲法
ニシテ土木事業ノ爲メ州債ヲ起スコトヲ禁止セル明文ヲ掲ケタルモノ尠シト爲
サス

第二 企業家及ヒ地方機關ノ私曲ハ鐵道事業ニ付テ最モ多ク行ハレタリ蓋シ同
國ノ地方團體ハ私設鐵道會社ニ補助金ヲ與フルコトヲ得ルヲ以テ會社ハ線路ノ
設定ニ際シ沿道ノ地方團體ヲ競争セシメテ多額ノ補助金ヲ支出セシムルコトニ
努メ當時鐵道熱ノ昇騰セル際地方團體ニシテ補助金支出ノ爲メ地方債ヲ起シ之
カ負擔ニ苦シマサルモノ殆ト稀ナリシモノノ如シ其他各種ノ事業經營ニ際シ公
益ヲ名トシテ地方機關ト結托シテ不當ノ補助金ヲ支出セシメ或ハ土地所有權ノ
轉賣工事ノ請負其他各種ノ方法ニ於テ不正ノ金額ヲ支出セシメ地方人民ノ負擔
ヲ大ナラシメシコト尠シト爲サス此等ノ徒黨ハ所謂「リング」(Ring)ト稱セラレ
ルモノニシテ既ニ世人ノ周知スル所ナリ

第二款 地方債監督ノ方法

地方債ノ監督ハ又其寬嚴宜キヲ得スハ非ス是レ地方稅ノ監督ノ下ニ於テセル
所ニシテ又茲ニ叙述スルノ要ヲ見ルコトナキヲ以テ唯地方債ノ監督ハ地方稅ノ
監督ニ比シ其方法嚴密ニ且ルモ比較的弊害少キモノナルコトヲ一言スルニ止メ
直チニ歐米各國ノ立法例ニ徴シ其監督方法ニ付キ叙述スル所アルヘシ
歐米各國ニ於テハ何レノ國ニ通スルモ監督官廳ノ認可ヲ要件トセサルモノ少シ
普國ニ於テハ縣參事會之ヲ監督シ英國ニ於テハ地方政務院之ヲ監督ス我邦ニ於
テハ內務大臣及ヒ大藏大臣之ヲ監督ス(府縣制第一三四條、郡制第一一五條、市
監督官廳ノ認可ヲ條件トスル外尚ホ法規ヲ以テ地方債ノ發行ニ付キ各國皆多少
ノ制限ヲ設ケサルモノナシ今其制限ノ重ナルモノヲ列舉スレハ次ノ如シ
第一 公債募集ノ議案ノ議決方法ニ對スル制限
或ハ三分ノ二以上ノ賛成ヲ條件ト爲スモノアリ或ハ一般選舉人ニ投票セシメ
テ四分ノ三以上ノ賛成ヲ條件ト爲スモノアリ(テンネシ州)或ハ同數ノ多額納

入者ヲ招集シテ等シク之カ議決ニ加ハラシムルモノアリ(佛國一千八百七十一年國制第四二條)

第二 起債ノ目的ニ對スル制限
或ハ私設會社ニ補助金ヲ與ヘ若クハ利子ノ補給ヲ爲シ若クハ其株主ト爲ルコトヲ禁スルモノアリ或ハ鐵道運河其他ノ營利的事業ノ企業ヲ禁スルモノアリ(合衆國或ハ公債ノ償還天災事變等ニ基ク必要ナル支出團體永久ノ利益ト爲ルヘキ支出等ヲ以テ起債ノ目的ノ條件ト爲シ(府縣制第一一七條) 尚ホ別ニ地方人民ノ負擔重キニ失スルカ爲メ通常ノ歳入増加ニ依ルコト能ハサルコトヲ附帶ノ條件ト爲スモノアリ(市制第一〇六條、町制第一〇六條)

第三 公債發行額ニ對スル制限

或ハ發行額ヲ百萬弗ニ限定セルモノアリ(七條青州憲法第一〇項)或ハ一箇年間ニ發行シ得ヘキ總額ヲ州内ニ存スル財産評價額ノ一千分ノ四分ノ一以下トシ公債ノ總額ハ一千分ノ四分ノ三以内ニ限定セルモノアリ(九條州憲法第三項)

第四 公債證券ノ發行ニ對スル制限

監督官廳ノ特定スル用紙又ハ特定以外ノ用紙ニシテ監督官廳ノ官印ヲ押捺セ

ルモノナルコトヲ條件ト爲スモノアリ(英國地方債條例第五條)

第五 償還方法ニ對スル制限

或ハ償還期間ノ最高限度ヲ定ムルモノアリ或ハ据置期間ノ最高限度ヲ併セ定ムルモノアリ(英、普、米、佛、日)或ハ年年ノ償還歩ヲ一定スヘキコトヲ條件ト爲スモノアリ(市制第一〇六條、町制第一〇六條)

以上ハ地方債ノ發行ニ對スル制限ノ重ナルモノナリ然レトモ等シク公共團體ニシテ府縣アリ市町村アリ水利組合學校組合アリ此等ノ團體又各國ニ通シテ其大小強弱一ナルコトナシ唯要ハ其歳入ノ財源豊饒ニシテ財務ノ衝ニ當ル者其人ヲ得ハ地方債ニ依リテ所在地方ノ國利民福ヲ増進シ得ヘキノミナラス能ク自治制度ノ本旨ヲ到達シ得ヘキコト又言フ俟タス我邦ノ地方團體ノ如ク財産收入都市合計百四十萬圓町村合計百十九萬圓總計二百八十萬圓ニ過キササル無資力ノ狀態ニ在リテハ地方財政發達ノ前途猶ホ杳トシテ悠遠ナリト謂フヘキノミ

收支適合論終

各國富力及ヒ負擔比較表

國名	富力	一人富力	一人公債額	一人純富力	一人歲出額	純富力ニ對スル 歲出負擔ノ割合
米 國	一、三三、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一三三四	五八	二二八二	一三	萬分ノ五
英 國	一、八〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	三〇二〇	一五六	二八六四	三三	萬分ノ十一
佛 國	九六、九〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二五二〇	三二二	二二〇八	三六	萬分ノ十六
獨 逸	八〇、三〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一五六〇	二〇	一五四〇	一六	萬分ノ十
露 國	六四、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇	六一〇	五八	五五二	一八	萬分ノ三十二
埃 國	四、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇四〇	五〇	九九〇	二五	萬分ノ二十五
伊 國	三、六〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇一〇	一五三	八五七	二一	萬分ノ二十四
西 牙	三、八〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一三五〇	二〇三	一一四七	一九	萬分ノ十六
日 本	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一二五〇	一一	二二二九	五	萬分ノ二十

財政學 各國富力及ヒ負擔比較表

日本ノ富

(一) 日下氏ノ調査(明治三十二年二月)

土地	官有地產出額一十億圓ノ半額ヲ純益トシ五分利ト見テ算出官有地ハ省ク	一〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
建築物	官衙等ハ著シク増算ス	一九一九〇〇〇〇〇〇
家畜	牛一頭三十五圓	七五〇〇〇〇〇〇
鑛業	一ヶ年採掘額四千万圓ノ半額ヲ純益トシ五分利ト見テ算出ス	四〇五〇〇〇〇〇〇
水産	一ヶ年採掘額二千七百万圓ノ半額ヲ純益トシ五分利ト見テ算出ス	二七二〇〇〇〇〇〇
鐵道電信及水道	鐵道ハ益金ヲ五分利ト見テ算出ス	九〇〇〇〇〇〇〇〇
船體	汽船一噸百圓軍艦一噸五百圓其他各々差アリ	九八〇〇〇〇〇〇
家具及ヒ美術品	均百圓	七八八〇〇〇〇〇〇
諸會社及ヒ銀行拂込資本	郵船會社、商船會社、船代、船控、餘社	二四二〇〇〇〇〇〇〇
現金	金銀銅貨	一七六〇〇〇〇〇〇〇
商品	以上十項合計	一〇二八〇〇〇〇〇〇〇

合計

(二) 石橋氏ノ調査(三十九年)

土地	新地ハ賣出高四六分ノ勞力價代及ヒ租稅ヲ引キ殘金ヲ六分ノ勞力價代及ヒ租稅	六〇六九二〇八〇〇〇
家畜及ヒ農具	家畜ハ現在數、農具ハ家數ニテ算ス	一一二一四五七〇〇〇
家屋及ヒ倉庫	家屋ハ住宅一坪六圓、倉庫ハ十八圓ノ額	一一三五三三三〇〇〇
家財	價格ノ半額	四八五九二六〇〇〇
商品	農産六割其他ハ八割之ニ付、入品價ヲ加ヘタル其半額	六七〇九四六〇〇〇
貨幣	最近在高	一八七〇〇〇〇〇〇〇
鐵道	三十一一年三月末、現在ヨリ一割増	二〇五二八三〇〇〇〇
工場	分ノ一ノ四	一八一、一二三〇〇〇〇
其他	以上八項合計	一三五八、四四一、〇〇〇
合計		一一四一、四七一、七〇〇〇

(三) 中島氏ノ調査(三十九年九月)

土地	官有地ヲ除キ、餘ノ地價ハ收買高ノ九倍其他ハ五倍	六〇七八、八一六、七二〇
----	-------------------------	--------------

財政學 日本ノ所得

八〇六

家畜及農具(農具資本)	二五四,七四九,三〇五
家屋及倉庫(市街一月二日圓)	一,〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
家財(家屋價格ノ二分)	五〇〇,〇〇〇,〇〇〇
商品(農工商林漁業生産價)	八九三,二九五,〇〇〇
貨幣(現在高當時)	一九二,〇〇〇,〇〇〇
鐵道(建設費)	三〇〇,〇〇〇,〇〇〇
工場(製造物價格)	一七五,〇〇〇,〇〇〇
其他(計以上八項合)	一,八七八,七七二,二〇四
合計	一一,二七二,六三三,二二九

日本ノ所得

(一) 濱口氏ノ調査(三十一)

農業(總產出高)	三二八,二九四,八四九
工業(總產出高)	二七〇,三九一,九七二

鑛業(總產出)

山林(總產出)

漁業(總產出)

商業(內國商業)

運輸(內國商業)

家賃(全國家賃價)

僱婢賃(家賃ノ三分)

公務(國家收入)

職業(計以上十項合)

合計

(二) 石橋氏ノ調査(三十九)

農業(總產出高)	五五七,四五九,〇〇〇
工業(總產出高)	二九五,七九三,〇〇〇
鑛業(總產出高)	二八,三五四,〇〇〇
合計	八〇七

財政學 日本ノ所得

林業(總產出高)	一四、八六三、〇〇〇
漁業(總產出高)	六〇、四六六、〇〇〇
鹽業(總產出高)	八、五八九、〇〇〇
商業(以上六項合計ノ一割)	一八〇、七六八、〇〇〇
運輸業(同前ノ一)	一八九、八〇六、〇〇〇
家賃(宅地價ノ六分)	一一四、五九六、〇〇〇
俵婢賃(家賃ノ二)	五七、二八七、〇〇〇
公務(國庫歳入ノ五分ニ三加フ)	五四六、五一、〇〇〇
職業(以上十一項合計ノ五分)	七八、一三二、〇〇〇
合計	一、六四〇、七六四、〇〇〇
(三) 中島氏ノ調査(三十九年)	
農業(總產出高)	五六六、一九六、〇〇〇
工業(製糖產高ノ五分三厘)	三一六、五二八、八三三
鑛林漁鹽業(總產出高)	一〇三、一八一、〇〇〇

商業(内國貿易)	一七、八六五、九三一
運輸業(内國貿易額)	一八、七五九、二二八
家賃(買賃價格ノ一割五分)	一一〇、〇〇〇、〇〇〇
俵婢賃(家賃ノ二)	六〇、〇〇〇、〇〇〇
公務(國庫歳入)	七二、〇〇〇、〇〇〇
職業(以上八項合計)	八〇、二〇〇、〇〇〇
合計	一、六八四、三五七、四二八

(参考) マルホール氏ノ調査標準

富ノ調査標準	一年ノ地租ノ三十倍
(一) 土地	官廳ノ計算ニ從フ
(二) 家畜	土地家畜ノ金價格ノ一割
(三) 農具	家賃ノ十六倍半
(四) 家屋	

(五) 家財
(六) 鐵道
(七) 工場
(八) 金銀
(九) 貨物
(十) 雜類
所得ノ調査標準

(一) 農業
(二) 製造業
(三) 鑛業
(四) 林業
(五) 漁業
(六) 貿易
(七) 運輸

八二〇

家屋ノ價格ノ五割
敷設費ノ全額
製造品年額ノ三分ノ一
政府ノ報告ニ從フ
農業製造業、林業、漁業ノ
五割及ヒ輸入貨物總額ノ五割
以上九項總額ノ二割

畜出總額ノ六割
製産總額ノ五割
採獲總額ノ一割
採獲總額ノ一割
內國貿易總額ノ二割
內國貿易總額ノ一割五分

(八) 家賃
(九) 賃賃
(十) 公務俸給
(七) 諸職業

家屋價格全額ノ六分
家賃ノ三分ノ二
國庫收入ノ五割
以上十項總額ノ一割

行政軍事國債三費累年比較表

年度	經常費		臨時費		合計
	行政費	軍事費	行政費	軍事費	
二十六年	三九八八	五三六〇	一四六八九	五三六〇	八九、五四四
二十七年	二八二九八	一三、四〇一	九四三八	八、三六〇	三九、五二四
二十八年	二九、六三三	一三、三三三	七、六三三	一〇、二二三	三九、五二四
二十九年	四〇、三三三	二九、九六四	二四、八一〇	四三、三三三	五五、〇五五
三十年	三九、九〇〇	三八、二九〇	四三、六九七	七三、三三三	五五、〇五五
三十一年	四六、九三六	四三、七五三	三三、〇〇〇	六八、六七四	五五、〇五五
合計					二九、七七七

財政學 行政軍事國債三費累年比較表

年 度	經 常 費				臨 時 費				合 計			
	行政費	軍事費	國債費	合計	行政費	軍事費	國債費	合計	行政費	軍事費	國債費	合計
三十二年	五,一五七	五,〇一九八	五,三三六	一五,五九一	六,八八八	六,四〇五	六,八一〇	一九,九〇三	二二,四二二	二二,四二二	二,五九〇	二五,〇一五
三十三年	六,七三三	五,〇三〇	五,四八二	一七,二四五	八,〇五九	六,九一〇	六,九一〇	二一,〇一九	二一,〇一九	二,八八〇	二,八八〇	二四,九七九
三十四年	六,八六〇	五,一六三	五,八五二	一七,八七五	二,八五九	一,五二〇	一,五二〇	二一,二〇四	二一,二〇四	七,六七一	七,六七一	二八,八七五
三十五年	七,四二九	五,七七一	四,三二五	一七,四八四	一,五〇三	三,三九四	一,七〇〇	二二,五七七	二二,五七七	七,四八四	七,四八四	三〇,〇六二

各國軍事公債行政費種別比較表

(單位千圓)

國 名	軍 事 費	公 債 費	行 政 費	合 計
露 國	四一七六二二	二七四九〇九	一一二二九四九	一七八八四八二
佛 蘭 西	一〇二二九〇一	一二四五三六二	一一八三〇二八	三五五二二九二
合 衆 國	一九〇七二七	四〇二六〇	二四七八二五	四八七七二三
英 國	八九〇三三	一九二二九	四一八〇八	一五〇〇六一

財政學 各國軍事公債行政費種別比較表

匈 牙 利	三六五六八	二九六,〇二四	七二三九六三	一〇五六五五六
獨 逸	八二七八六八	七七七〇一	一一五〇九二九	二〇五六四九七
伊 多 利	三九三五四四	七一〇五五	六二五七二二	一七三〇三二二
西 班 牙	一七六五七九	四一七九三八	三三一九五〇	九二六四六八
日 本	七四八二四	七八一六四	一一七四五五	二七〇四二四
白 耳 義	五五三三九	一三〇七三〇	三〇一九七八	四八八〇四七
和 蘭	三七六三四	三七九六九	七四九九〇	一五〇一九三
葡 萄 牙	一〇三二七	一九九五四	二四五六六	五四八四八
丁 抹	一八八一四	七一七〇	四六六八六	七二六七三
埃 多 利	五九一九四	三四五二二二	一一三六八四六	一六四一一六三

財政學 各國公債各種別現在高比較表

國名	分額額	九一八年	分額額	割増合加
白耳機	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
波蘭	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
土耳其	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
葡萄牙	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
匈牙利	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
希臘	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
羅馬尼亞	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
日本	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
德國	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
法國	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
英國	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
美國	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
蘇俄	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
中國	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
印度	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
暹羅	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
菲律賓	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
爪哇	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
荷屬東印度	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
南洋羣島	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%
其他	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%

各國公債各種別現在高比較表

國名	分額額	九一八年	分額額	割増合加	有利子確定公債		無利子確定公債	流動公債合計
					內國債	外國債		
白耳機	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
波蘭	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
土耳其	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
葡萄牙	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
匈牙利	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
希臘	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
羅馬尼亞	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
日本	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
德國	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
法國	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
英國	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
美國	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
蘇俄	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
中國	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
印度	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
暹羅	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
菲律賓	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
爪哇	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
荷屬東印度	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
南洋羣島	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	
其他	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0%	100,000,000	0	100,000,000	

人	有利子債定外債		定公債	補助公債	合計	分額額	九一七八	分額額	増減
	内國債	外國債							
ブルガリア	1,000,000	—	—	—	1,000,000	—	—	—	—
サマリア	—	—	—	—	—	—	—	—	—
白 露	—	—	—	—	—	—	—	—	—
瑞 士	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ニカラガワ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	1,000,000	—	—	—	1,000,000	—	—	—	—

(備考) 佛土、亞爾然丁、墨西哥、ブルガリア、ヴェネチア、智利、ハニ、八八八年及
 一八八九年ノ調査ニ埃、伊羅、サント、ミンゴ、ゼル、ビヤ、ブラシル、西瑞士ハ
 一八八七年及一八八九年ノ調査ニケルケエ、ハ一八八六年ノ調査ニ依ル

財政各收支別累年比較表

(單位千圓)

年度	總稅印紙及 租稅收入	總收入	現公債	租稅	總收入	現公債	租稅	總收入	現公債	租稅印紙及 租稅收入	公債現高
市											
町											
村											
合計											

年度	總稅印紙及 租稅收入	總收入	現公債	租稅	總收入	現公債	租稅	總收入	現公債	租稅印紙及 租稅收入	公債現高
廿五年	1,000,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—
廿六年	1,000,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—
廿七年	1,000,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—
廿八年	1,000,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—
廿九年	1,000,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—
三十年	1,000,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—
卅一年	1,000,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—
卅二年	1,000,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—
卅三年	1,000,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—
卅四年	1,000,000	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—	1,000,000	—

- (一) 公債現高ハ年首ノ現在高ヲ揭ケ紙幣及ロ年度内一時ノ借入金ヲ含マス
- (二) 諸收入中ニハ公債償金前年度利餘等特別臨時ノモノヲ包含シ且ツ府縣
市町村ノ諸收入ニハ補助金ヲモ編入セリ
- (三) 特別會計ノ歳入及ヒ臺灣專業公債ハ本表中ニ包含セズ

收入各種別一人當累年比較表

年次	税										地方税		國庫諸收入		諸公債		其他
	地租	所得稅	營業稅	酒稅	油稅	砂利稅	國庫稅	府縣稅	市町村印紙	紙幣	國庫	進出	國債	市債	市債	市債	
廿五年	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
廿六年	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
廿七年	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
廿八年	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
廿九年	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
三十年	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
卅一年	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
卅二年	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
卅三年	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
卅四年	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
卅五年	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000

(市町村債中ニハ郡債ヲ含ム)

6870

明治三十五年九月三十日印刷
 明治三十五年十月五日發行
 明治三十七年一月十五日再版發行
 明治三十八年九月十五日三版發行

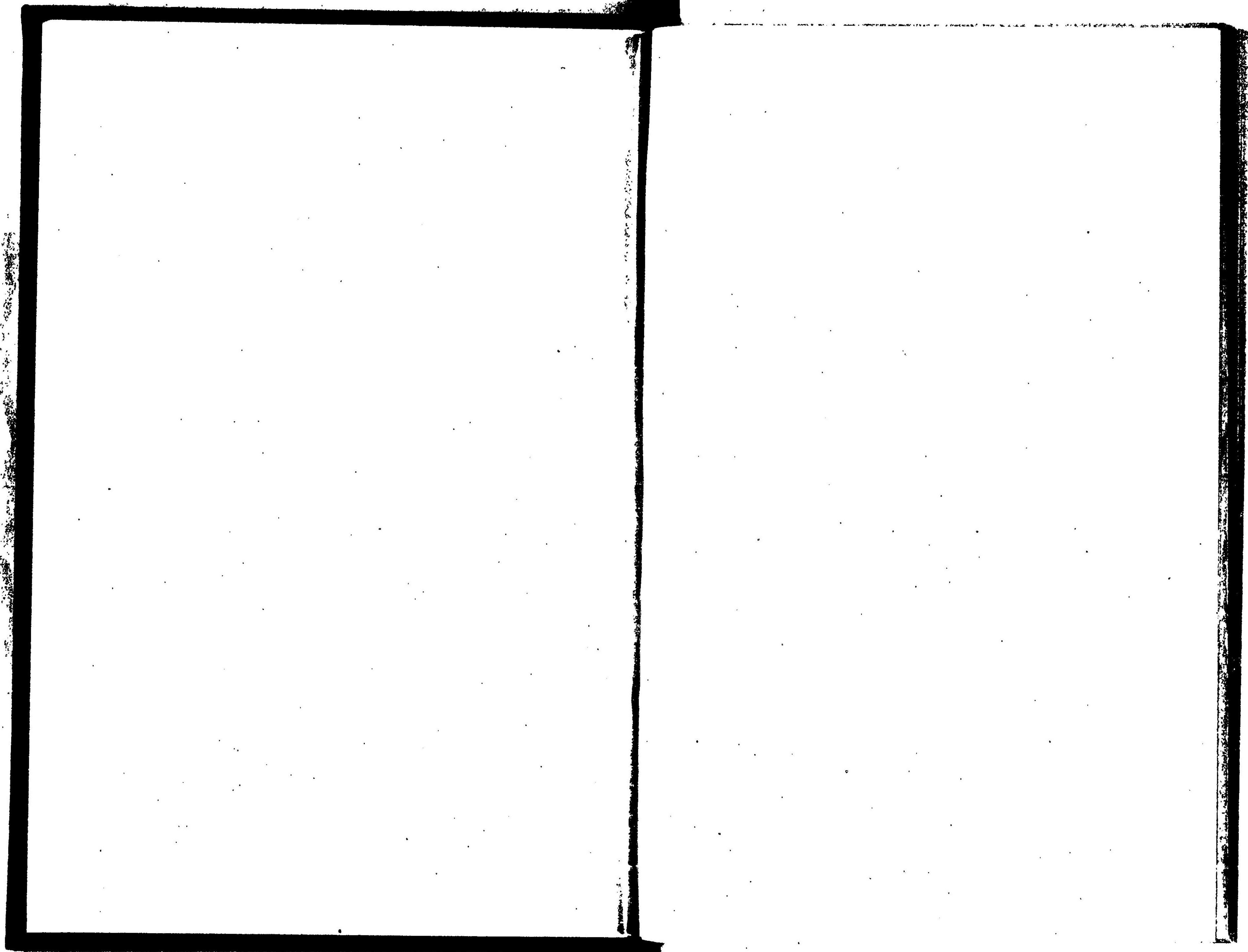


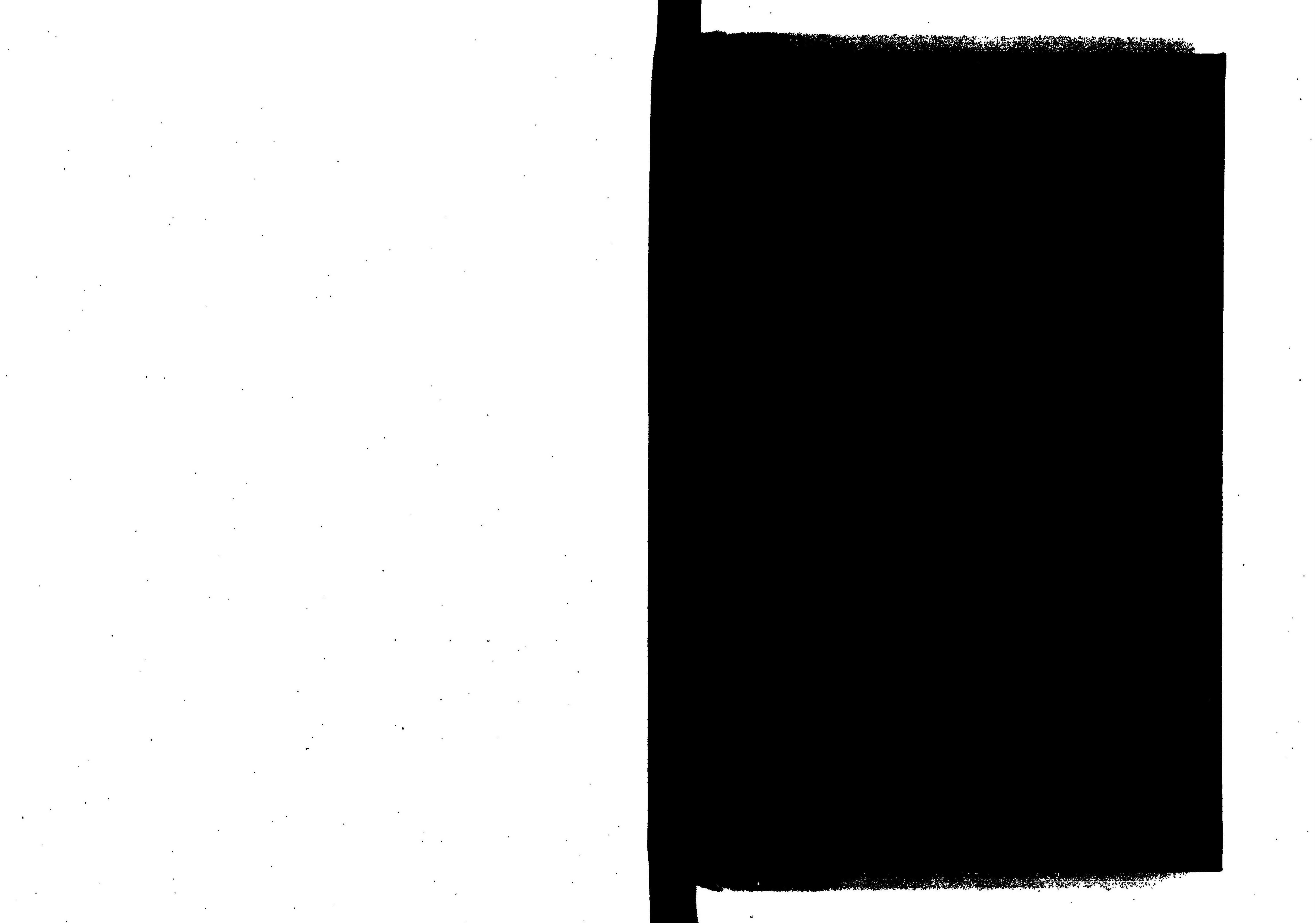
著者 下村 宏
 發行者 鈴木 敬親
 印刷者 長谷川 辰二郎
 印刷所 小川印刷所

時政學典附
 正價金貳圓
 上製金貳拾錢増

發行所 東京市神田區一ツ橋通町七番地
 東京市神田區一ツ橋通町七番地
 中外出版社
 有斐閣書房

ZfSW3





特70
336

040580-000-4

特70-336

財政学

下村 宏/著

M38.9

BDE-0.207



